

ハイック アルミ資源で水素発電 アルミテ 環境省事業を採択

廃アルミの資源活用を進めるアルハイテック（富山県高岡市、水本伸明社長、☎0766・50・8109）

は8月7日、環境省の令和5年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（地域共創・セクター横断型カーボンニュートラル技術開発・実証事業）に採択されたと発表した。助成額は1000万円。2024年2月末日まで、同社が開発した水素製造装置により、アルミを原料とした水素火力発電所のFS事業

に着手する。

同社は苛性ソーダをベースとしたアルカリ性の溶液とアルミとを化学反応させることで水素を製造する装置を商用化している。FS事業では、廃アルミなどで製造した水素を火力発電の燃料として利用する事業の有効性を調査する。水素によってつくられたグリーン電力は富山県内のグリーン電力を求めている。施設へFS終了後に供給する予定という。水素製造時には副生

物として水酸化アルミが発生することが知られている。難燃材や凝集剤などとして用途が広く、利用価値も高い。同事業では、利用メーカーに対する水酸化アルミの販売も含めて実証する。

同社では、FS事業を足がかりに、小型の「アルミ水素発電所」を全国に広げる考え。2026年の稼働を目指し、富山県内で出力320キロワットの第1号機を計画している。